

科目ナンバリング		U-LAS01 20010 SJ38							
授業科目名 <英訳>		東洋史基礎ゼミナールⅠ Introductory Seminar on Oriental History I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	歴史・文明(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）		
開講年度・開講期	2024・後期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
「中国史の名場面を漢文で読む」 中国史の名場面を原文で読んでみよう！ この授業では、中国史の名場面を記した漢文史料を「訓読」して、その内容を理解することを目的とします。 教科書だと1～2行で片付けられている事件でも、史料では何ページもわたって事の次第が詳細に記され、行間から登場人物の息づかいを感じることができます。この機会を利用して、史料解読の醍醐味を少しでも味わってほしいと思います。 今年度の授業では、『資治通鑑』（北宋・司馬光編）のうち、隋唐史のトピックスを選んで読んでいきます。									
[到達目標]									
伝統中国を知るための根本となる「漢文」の読解について、基礎的な知識を身につける。									
[授業計画と内容]									
●初回授業時の「ガイダンス」に、授業の進め方について説明しますので、必ず出席すること。 ●訓読の技法を身につけ、文章の意味を理解することを第一の目的とします。2週目からは『資治通鑑』の文章に取り組んでいただきます。 ●予習－授業－復習の内容は、以下の通りです。 ①予習：授業で読む箇所を事前にお知らせしますので、その部分について、読み下し、不明語句の下調べをしておくこと。 ②授業：特に担当を決めず、適宜指名して、少しずつ原文を読み下してもらった後、内容についての質疑応答・解説を行います。 ③復習：授業で読み進んだ箇所について各自復習すること。復習をきちんと行うことが漢文訓読上達の近道です。 ●小テスト－力だめしとして、適宜、小テストを課します。 ●授業中、漢和辞典を引いて漢字・語句の意味を調べてもらいます。必ず「紙の辞書」を持参すること！ ●授業回数はフィードバックを含めて全15回とします。									
[履修要件]									
漢和辞典の引き方がわかっていること。 漢文の「訓読（読み下し）」について、基本的な知識を備えていること。 ※現代中国語と漢文とは別物とお考え下さい。									
-----東洋史基礎ゼミナールⅠ(2)へ続く↓↓↓									

東洋史基礎ゼミナールⅠ(2)

[成績評価の方法・観点]

授業参加に対する評価（きちんと予習できているかを見ます。50%）、小テストの成績（50%）とを総合して、成績を判定します。

【重要】3度の欠席で「不可」となりますので、ご注意下さい。

[教科書]

こちらでテキストを用意し、配布します。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

高等学校で学習した「漢文」の基礎について、きちんと復習しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者は、漢和辞典を必ず持参すること。（初回授業時に何点か紹介します。）